

と貸出室を分けるパターンにしたい。

- (2) 利用者が図書館へ足を運べる地域（図書館を中心として）及び、利用する層とその図書について具体的に把握する必要がある。
- (3) 対外活動については、県内各地の現状にかんがみまだまだ第一線図書館としての移動図書館を巡回させるべきである。それには車と図書の増加ということに努力をしなければならない。
- (4) 資料の収集にあたっては後世に残すべき貴重な資料はもらすことのないようにしたい。これについては特に今年度から緊急整備費という予算措置もできたので、万全を期したいが、委員各位にもせめて県内に存する貴重資料等については眼をむけていただきたい。

## 第2節 整理事務

### 1 資料の収集

資料の収集にあたっては、前年度にひきつづき、各部門の参考図書、学術書などの基本的な図書を重点的に収集することに努めた。一方、昭和41年度の資料購入費は、館内用図書215万円、館外用図書160万円であった。このうち館内用資料購入費で購入した図書は1,616冊で平均単価は1,516円であった。冊数で前年比4.3%、平均単価では26.3%の上昇率である。ちなみに、日本における年間出版点数は、出版年鑑によると新刊のみで約13,000点であるから、本館における年間購入冊数は、年間出版点数の約12%にすぎないわけである。したがって、利用者に対する資料の提供も充分でないし、貴重な資料の相当数の購入を見合わせざるを得ない現状である。

表1 昭和41年度年間増加冊数（分類別）

	購入	寄贈	編入	計
(館内奉仕用)				
総計	86	23	145	254
哲学	63	2	6	71
歴史	258	31	31	320
社会科学	180	169	142	491
自然科学	45	4	17	66
工学・工業	45	12	38	95
産業	70	36	50	156
芸術	68	62	48	178
語学	18	0	7	25
文学	293	28	20	341
児童	28	0	0	28
小計	1,154	367	504	2,025
(館外奉仕用)	4,053	337	1	4,391
総計	5,207	704	505	6,416

### 2 寄贈図書

中央官庁や各種団体の報告、諸統計あるいは民間会社の社史、研究、宣伝、紹介物、また大学、研究所等の研究紀要などの貴重な資料は、例年数多く寄贈されてきたが本年度は図書1,744冊、新聞80種、雑誌216種に達し、これらの資料は、利用者の調査研究のための貴重な資料として分類整理し、利用に供した。

## 3 整本

整本の仕事は、新聞、雑誌などの合本製本と利用のはげしい自動車文庫、貸出文庫等の図書、館内閲覧用の修理などであるが、本年度処理したのは、一般図書1,024冊、新聞合本384冊、雑誌合本1,158冊、その他620件であった。また県内の学校図書館関係者の要請に応じて、技能員を派遣してつぎの2ヵ所で簡易製本技術の指導にあたった。

簡易製本講習会

期日 昭和41年10月26日

会場 県立郡山女子高等学校

主催 県立高等学校司書研修会

参加者 県立高等学校図書館主任、司書約30名

期日 昭和42年2月28日

会場 郡山市立赤木小学校

主催 郡山市学校図書館教育研究会

参加者 小・中学校図書館主任、司書補約30名

## 4 蔵書目録

昭和30年から、重点継続事業の一つとして着手した蔵書目録の公刊は、昨年度の「文学篇2」をもって、郷土資料をふくむ全部門を一応完成した。本年度は各部門にあたるその後の増加図書約18,500冊を収録して「増加図書目録」を刊行した。この目録の刊行によって、今後に予定される増加図書目録は年刊の形で提供できるようになった。

## 5 図書の選定

自動車文庫、貸出文庫等のための館外用図書は、学識経験者10名に図書選定委員を委嘱し、毎月第2水曜日を定例日として選定委員会を開催し2,400冊の図書を選定した。

福島県立図書館図書選定委員

(任期は41年4月から42年3月まで)

片平幸三	福島市立北信中学校教諭
喜吉亮	福島大学付属小学校教諭
朽葉繁子	労働省福島婦人少年室長
佐々木信夫	桜の聖母短期大学助教授
柴生田潤	医師
白石マツ	福島県婦人教育指導員
清野彦吉	福島県史編纂室嘱託
田村由岐	主婦
西山泰三	福島県農業協同組合講習所員
八木美代子	主婦

## 第3節 館内奉仕

「公共図書館の本質的な機能は、資料を求めるあらゆる人々やグループに対し、効果的にかつ無料で提供するとともに住民の資料要求を増大させるのが目的である。」といわれているように、従来の館内閲覧中心から脱却して貸出業務に主力を注ぐことが、今後の公共図書館が利用者に対するサービスの向上であると考えられるので、